

資料

シンポジウム「税金を払わない巨大企業」での発言

格差社会にどう対応するか

—ピケティ「21世紀の資本」を読んで—

和光大学教授 竹信三恵子（元朝日新聞記者）

「ピケティ入門」を書いた目的

現在の出版界の実情

今日はまず、フランスの経済学者トマ・ピケティが「21世紀の資本」で、なんで格差が拡大しているか？と言っているかというところを、簡単に話したいと思います。

私が書いた「ピケティ入門」がかなり激しいネット攻撃にあっております、なぜか今度まったく同名の本を出ると言います。どっちがどっちかわからなくするということなのだと思います。

とても社会の言論空間と言うものがすごいことになってるということがわかります。ちょっと注意して見てみてください。

新しく出てくる「ピケティ入門」は一体どういう本なのかということですね。

ネットでアベノミクスに反対という本が出ると、あっという間に同じ題名の本がどっと並びます。浜矩子さんがアベノミクスの本をお出しになって、ベストセラーになったのを覚えていらっしゃると思うのですが、たまたま私もそのときネットを見たら、バラバラと同じ内容のものが並んでいました。「なんで？」と思って中身を見たら全部同じ内容で、浜矩子さんの本とは反対の内容でした。

そういうネットサポーターのようなものがどうも政治的にあるらしく、それが情報空間を左右しているということをまず申し上げたい。

次に「ピケティ入門」をどうして書いたかを言いますと、誰かがピケティの言ったことを簡単に書かないと、今言いましたような恐ろしい本が次から次に出まくって、ピケティがアベノミクスに賛成しているとか、消費税に賛成して

いるとまことしやかに流しまくる流れが出来たらどうしようと思っただけです。

ピケティがどういうふうにして格差が広がるかと言っているかということだけ、みなさんにわかっていたら、アベノミクスに賛成しているとか、消費税に賛成しているなんていうの

ピケティの言っていること

格差拡大の分析

が出てきても「そんなの嘘ですよ」と分かっただけで、今日の私の話は終わりなんです。

で、ピケティはどういうことを言っているかということ、とても簡単なことです。

資産、家や土地、貯金とか色々なものの資産の収益率は所得の収益率よりはるかに大きいということは経験的に裏付けられている、ということだけです。

例えば資産を持っている人が、土地を回すとか、運用するとか、お金を運用するとかすると平均して4~5%の収益が出るというのがピケティの言い分で、所得はどうなのかと言いますと、私たち賃金の伸び率からわかるように、とってもそんなもの年間4~5%もいくわけがないですよ。

そうなってくると当然資産を持っている人は置いておけば、うまく運用すればですけど、どんどん資産が増えていきます。資産がなくて賃金だけの人がもしいるとすれば、そういう人たちは増えませんから、要するに資産を持っていると倍々で増えていく。だからそのぶん放置すると格差が広がっちゃう。

じゃあどうして1945年以降の戦後私たちの世界はあたかも経済発展すれば、格差が縮まるように言われてきたのか？

実際、経済が成長して、お金が回ったりした時期があって、下の方の人も裕福になった時期があったと思うんですが、どうしてか？

これは戦争中に再分配の仕組みが出来たからです。というのが大雑把な理由です。

1914年に第一次世界大戦が起きますよね。17年にロシア革命です。それから29年に世界大恐慌。それから1939年から45年までが第二次世界大戦です。この期間は世界的な格差の大縮小期と言われています。これはクルーグマンという経済学者もそういうふうに言っております。

どうしてか？ピケティの言い分はその前まではどんどん格差が広がる一方でした。19世紀は格差の時代と言われてどんどん広がっていった。それが戦争によって戦乱が起きると富裕層の資産が崩壊します。

それからもう一つは戦争のために累進課税をやってもいいんだとみんな思い始めます。

そしてもう一つはロシア革命があったので、あんまり無理すると革命になっちゃうぞという恐怖感が富裕層にあった。それからもう一つは29年の世界大恐慌で、リーマンショックの時と同じように経済を自由勝手に市場に任せておくと大変なことが起きるとということがみんなその時期にわかったわけです。

なので経済統制はいいんじゃないかという認識が広がった。それで、第二次世界大戦ですね。しかも兵隊を送り出している中低所得層はやっぱり「俺達兵隊出しているのになんだ」という気持ちがあります。だからそういう人たちはお金持ちからお金をとって税金を再分配して、残された家族に少しは何かしてやらないと納得しない気持ちが当然ありますよね。

そういういくつかの理由によって再分配をしっかりする仕組みと富裕層から累進課税をとってもいいんだっていう仕組みできたんです。

それで戦後は、その仕組みによって経済成長や復興経済があれば、その仕組みによって下の階層にまで分配された。

これが戦後の経済成長が格差縮小に回った理由です。

それが1980年代から段々資産が溜まり始めていった富裕層が、力を持っていった。そしてその人たちがその仕組みをどんどん壊したんです。政治の力を使って壊していったんです。

日本で言えば1980年代から中曽根政権が所得税の最高税率をドンドン下げていった。

75〜60、50%と。そして39くらいまで下がってリーマンショックでまた49くらいまで上がりました。で、レーガン政権、サッチャー政権のみんな同じです。

そういう風潮が蔓延していったんです。そのために戻っちゃったんですね。

だからどんどん格差が広がり始めた。ということなんだというのがピケティの説明です。だから一言で時間がないので簡単に言いますと、もう一度格差を縮小させるにはどうしたらいいかと。簡単ですよ。もう一回その仕組みを取り戻す。人為的に手を入れなければ広がり続けるんですから、成長さえすればなんて言っていたらどんどん格差が広がっていく。で、もうすでにOECDでさえも去年の暮れに報告書を出しています。「トリクルダウンはもう周りませんよ。効果ないですよ」とあのOECDが言い始めているんです。それを相変わらずアベノミクスは「成長すればなんとかなるんです」とか「ピケティはアベノミクスに賛成です」とかいったことを、さっき言った出版界を使って言うわけじゃないですか。騙されちゃいけない。ホントに出版界は怖いことになってると思いました。

ピケティには再分配がいいのか賃上げがいいのかどうですか？という質問が会場で出たんですよ。それに対して、ピケティは「関係あります本当は」と答えました。

なんで企業トップの賃金がどんどん上がっていたのか？再分配を累進課税でとるという仕組みが壊れました。だからその前までは例えば、70年代に、75%とられたとします。そうすると1億もらったって累進課税7500万円税金にとられちゃうわけですから、もらったってしょうがないと企業のトップも思うわけですよ。

拡大した格差是正の道は

ところがそれがどんどん壊れて所得税が40%までいったとしますよ。そして1億もらったら6000万円が自分のものになる。そのようにして再分配が壊れたことが企業トップの強欲を生んだ

んだってピケティは言っています。

ということは、再分配の側から手を突っ込んでいくことが非常に今、急務になっていって、それが賃金の分配も変えていく可能性があるんだということになると思います。

じゃあ、ピケティはなにをすべきだと言っているか。世界的、累進的資本課税を強化することだと言っているのです。

つまり各国共通で資本に対して累進的な課税をみんなですればいいんですよといっているのです。なぜかというと累進課税しないと再分配はないからお金は回ってこないんだけど、強めると他の国に逃げて行ってしまう。じゃあ一緒にやるしかないという提案です。

そういうと必ず私の周りの人も含めてみんな、「えー出来るわけない。そんなの」とか「ピケティって夢想家なんですか」とか言われるんですね。

でも、そうではないぞというのが私のピケティを読んだ結論です。

すぐにやるのは無理かもしれませんが、さっき申し上げたように税制って、人が作るものじゃないですか。さっき言ったようになぜ累進課税がヨーロッパでもアメリカでも一時期、あんなに力を持ったのかというと「とらないと俺達兵隊にいかねーぜ」って言われるからでした。

だから人々が作らせたんですよ。ニューディール政策だって大恐慌で市場に任せたら終わりだぜって、みんな思ったから。日本だって39%まで下がった所得税が45%まで上がったのはリーマンショックで、そんなことやってたら駄目だってみんな言い始めたからでしょ。

ということは、みんながそういう現実をきちんと認識して、仕組みを変えて手を突っ込もうというふうに変えていけば、そういった新しい税制が出来るかもしれないんです。

所得税だってナポレオン戦争の時に入っているけれど、入ったばかりの時は、みんなびっくりして「なにこの税金は」って言ったそうです。

それと同じようにを私たちは今「なにこの税金は」と世界的累進的資本税に対して言ってるかもしれないんです。

とすればもっと自信を持ち、自分たちにちゃんと再分配を行えと言っていけばいいのです。

そのために世界的な規制が必要ならやればいって言ったほうがいい。

しかもそういう意見は国連でもILOでも超富裕層から薄い累進課税を一斉にとってそれをODAとか世界福祉とかに回せばいいって意見は案外出てきているんですね。しかもそれやらないと、戦後の福祉的社会なんてすぐなくなります。

年金とか健康保険とかは人間にとっての命綱ですよ。そういうものを守ろうと思ったら、その再分配の仕組みをもう一回ほりおこして、ちゃんとやり直すという運動を起こしていかなければ、みんなのたれ死にます。

ということ、言って終わりにしたいと思います。どうもありがとうございました。